



Web Fairy Paradise

第49号

今月のフェアリー詰将棋

- 第43回 WFP フェアリー作品展(再掲)
- 第44回 WFP フェアリー作品展
- 第57回 推理将棋出題
- Fairy of the Forest #32

結果発表

- 第43回 WFP フェアリー作品展
- 第56回 推理将棋出題



2012/7

はじめに



(TETSUさんのところから借用です)

平成24年度の詰将棋全国大会が7月15日に長野県松本市で開催されました。詳細はネット上や詰パラ誌上で発表されると思いますが、盛況だったようですね。実行委員にフェアリストが多くいるのでフェアリーに関する催しがあるのではと期待しておりましたが、それは無かったようで(見えていないところではあったかもしれませんが)ちょっと残念でした。やはりフェアリーの祭典、全国フェアリー祭の開催が待たれますね。

私は今回は特に行きたいと思っていたのですが、相変わらずバドミントンの試合と重なりアウト。石川さんでしたか全国大会の日程を梅雨時ではなく9月頃にするよう幹事会で提案してみるとおっしゃってましたが、そうなれば嬉しいのですがどうなったのでしょうか？機会があれば是非また行きたいものです。

妖精都市によると、フェアリー「四十人一局集」がいよいよ実現に向けて動き出したようです。もともとの言い出しっぺは私だと思いますが、動きが鈍い私にしびれを切らした神無太郎さんが具体的に作業を開始されました。太郎さんが動き出したというだけで何だか完成にかなり近づいたと思うのはこれまでの実績が顕著だからこそです。私もお役に立てるようお手伝いしていきたいと思います。

四十人一局集についての詳細は、妖精都市(アドレスはページ右を参照)の「四十人一局集」のコンテンツをご覧ください。

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第49号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

K.Komine's Home Page

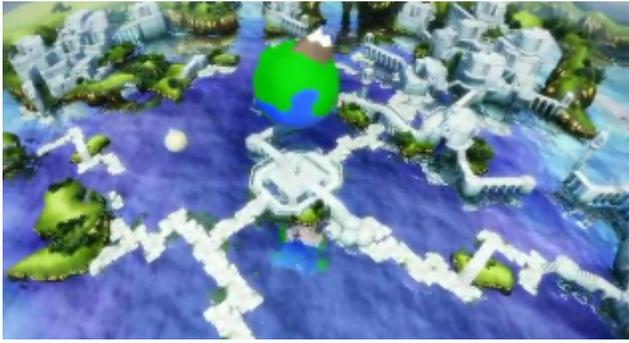
<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

イラスト・素材提供：幻想素材サイト First Moon

<http://www.first-moon.com/>

*表紙のイラストを使用させて頂いております。

第43回WFP作品展Bコース(再掲) 第44回WFP作品展出題 担当：神無七郎



(fomalhaut 作：初音ミクでバルトーク「マイクロコスモス」
#138[バグパイプ]より)

詰パラ7月号の「詰四会作品展」結果稿で、バルトークの「マイクロコスモス」の話題が出ていました。7月は看寿賞等の発表や全国大会など詰将棋界では重要な月です。詰パラ7月号にも注目すべき作品が出題されていて、本来ならそういった話題を取り上げるべきなのですが、ここでは自分の趣味 100%で、「マイクロコスモス」絡みの話をしたいと思います。

バルトークの「マイクロコスモス」は全 153 曲から成るピアノの練習曲集です。最初は初心者レベルから始まって徐々に難度が上がり、最後はコンサートで通用するレベルの曲に達します。練習曲集と言っても何しろバルトーク作品ですから現代音楽や民俗音楽の要素がいたる所にちりばめられており、単なる教材の域を越えている作品も少なくありません。その芸術的価値の高さから、抜粋や全曲の録音も数多く行われています。

私はもっぱらコチシュの演奏でこれらの曲を聴いているのですが、最近思いもかけぬ演奏に出会いました。いや、「演奏」というのは不適切かもしれませんが、これらの曲を「初音ミク」というボーカロイド(人工歌声合成)に歌わせ、更に映像を付けた作品が発表されたのです。作者は fomalhaut 氏。掲載はニコニコ動画です。

(一部は Youtube にも転載されているので、ニコニコ動画のアカウントを持たない場合は試しに Youtube で観るのも良いでしょう。)

同氏は 153 曲すべてに動画を付けており、その創意と熱意は驚くばかりです。各動画に付けられた楽曲解説は評論家視点の解説ではなく、演奏者視点の解説なので、非常に具体的で楽屋裏を覗いているような楽しさもあります。

私にとってこの動画の最大の魅力は「マイクロコスモス」を「歌」で聴けること。原曲は(一部例外を除き)ピアノ用に書かれているのです

が、曲によっては「歌」にした方が楽しめる作品も少なくありません。例えば、第 48 曲「ミクソリディア旋法で」(<http://www.nicovideo.jp/watch/sm16751284>) や第 138 曲「バグパイプ」(<http://www.nicovideo.jp/watch/sm17753193>) または <http://www.youtube.com/watch?v=OnPtG1GEM-I>) などはその典型例です。

また、歌うのが人間ではなくボーカロイドであることを利用した作品もあります。第 102 曲「ハーモニクス」(<http://www.nicovideo.jp/watch/sm17494536>) です。作者の解説によると、

音を出さずに鍵盤を押さえ、もう一方の手で和音を強打することで、押さえている鍵盤の倍音(ハーモニクス)だけを取り出すという特殊奏法を用いた、全曲中でも最も実験的な曲。もちろんボカロでは再現不可能(爆) 難関中の難関でしたが、エレクトロニクスの力を借りて、どうにかそれらしく擬似的に再現してみました><

と、なかなか苦勞をされたようです。「歌」にしたことで、ピアノ特有の打撃音が消え、荒々しさは失われていますが、合成音を利用した「ハーモニクス」は逆に強調され、バルトークの「実験」が聴き手に分かりやすく伝わってきます。

更に滅多に聴ける機会のない曲も聴けました。第 145 曲「Chromatic Invention(3)」(<http://www.nicovideo.jp/watch/sm17451534>) です。これは(a)と(b)の2つの曲からできているのですが、これらは2人の演奏者で同時に弾くこともでき、(a)+(b)を演奏した時に初めてバルトークが描いた完成形が姿を現します。他の CD でもそうだと思いますが、私の持っている CD には(a)+(b)は収録されておらず、存在自体もこの動画で初めて知りました。fomalhaut 氏は「マイクロコスモス」の付録の練習課題 33 曲も動画にしており、これらの曲も自分にとっては初めて聴くものでした。

クラシックの名曲に映像を付けるというと、ディズニー映画「ファンタジア」を思い出しますが、多くの資本と人手を注ぎ込んだ商業映画と異なりこれは完全に個人の創作物です。同時に、創作に使われた素材やツールは多くの人たちが作成・共有しているものなので、共同制作とも言えます。このような個人創作と共同制作の二重性を持つ創作形態は、PCやネットワーク技術の進歩が下支えしています。

どんな時代でも技術と文化は常に連動しています。私が今見ているのも、新しい技術が新

しい文化を生み出す正にその現場なのでしょう。
さて、前置きがもう前置きとは言えないほど長くなってしまいましたが、これから本題のWFP作品展の説明です。

今回のWFP作品展は前々月から解答を募集している第43回作品展Bコースと、今回新規に解答を募集する第44回作品展の2つで構成されています。当初両者は同じ締切(8月15日)に設定するつもりだったのですが、第43回Bコースに難問があることや、Fairy of the Forest #32との重複も考慮して、第44回分は別締切(9月15日)としました。難易度自体は第44回分の方が易しいと思います。

このところ解答者数が少ないのが悩みの種ですが、ぜひ皆さんの解答でこの悩みを解消してください。

【第43回Bコース各題への補足説明】

43B-1、43B-2、43B-7は神無太郎氏による安南協力自玉スタイルメイトの特集。前回のAコース**43A-1~3**と出題数の兼ね合いで分割しての出題となりました。特に**43B-1**は過去問に大きなヒントがあるはずです。

43B-3~6は変寝夢氏による対面協力自玉スタイルメイト双裸玉の特集。すべて持駒桂4枚に統一されています。なかなか手ごわそうですが、粘り強く解いてください。

39-12は解答者ゼロのため再出題。一乗谷酔象氏による推理将棋『アナグラムな対局』です。「アナグラム」は先手と後手が、順番以外は同じ手を指すという条件です。「同じ手」かどうかは棋譜上の表記で判断されますので、意外な手が「同じ」になるかもしれません。かなり詰みにくい条件ですので、先後同一着手で本作よりも短い手数で詰められる場合は、超正解として加点します。

40-11も解答者ゼロのため再出題。一乗谷酔象氏による推理将棋『生駒王手4回のスタイルメイト』です。今回は「最終玉位置**85**」という重大なヒントが付いています。また、本局は「最終玉位置**85**」「2手目は**92**飛」という条件(元の問題にとってはヒント)の**29**手解も準正解として扱いますので、この2条件だけを満たす解でもお送りください。

【第44回Bコース各題への補足説明】

44-1はPWCの基本手筋を利用した作品。WFP48号のJIGSAW BOX #07の07-02で苦戦している人は、本作を解いて調子を上げてから取り組むのも良いでしょう。

44-2は二玉詰で金の枚数が16枚に拡張されています。これ以外は通常枚数の設定で解いてください。協力詰ではないので、受方は詰まないよう抵抗します。

44-3はタイプAのIsardam特有の派手な応酬が飛び出します。WFP48号の「第12回詰四会フェアリー作品展解答」が参考になるでしょう。

44-4は44手なのでここに持ってきました。今回の最難問ですが、予想し易い最終形なので、最短ルート探しに徹すれば解けると思います。

解答要項

解答締切:

第43回B 2012年8月15日(水)

第44回 2012年9月15日(土)

宛先: janacek789@ybb.ne.jp

メールの件名に「解答」の語句を入れてください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じjanacek789@ybb.ne.jpへ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。f m検討済みなら.fmo形式のファイル添付を推奨します。

ルール説明

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト(王手は掛かっていないが合法手のない状態)にする。

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【対面】

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。二歩や行き所ない駒になるため、復元できない場合は、通常の駒取りになる。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【二玉詰】

複数の玉のどれかを詰ます。

王手もどれかの玉に掛ければ良い。

王手を外せなければ詰み。

■ 43B-6 変寝夢氏作

対面協力自玉スタイルメイト 16手

		王								一
									王	二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂4

■ 43B-7 神無太郎氏作

安南協力自玉スタイルメイト 22手

										一
										二
			王							三
										四
										五
										六
			王							七
										八
										九

持駒 桂4

■ 39-12 一乗谷酔象氏作 (再掲)

推理将棋『アナグラムな対局』

助手「今度は私の先手番でいいですね。
では、お願いします」

・・・ 30 手目後手の手番で・・・

博士「王手！」

3 回目の王手だけど、これで詰みだね」

助手「負けました。」

16 手目に 2 枚目の駒を打たれたところ
ではまだまだと思ったんですけど・・・
後手陣は手つかずで先手陣だけ終盤に
なってしまいました」

博士「最終手で詰まらずに後手陣だけ初形に
戻す手もあるぐらいだからね」

助手「77 地点にこだわって角の手と角成の手
と馬の手を指した作戦が悪かったので
しょうか」

博士「77 角と 77 角成と 77 馬は君だけでなく
私も指した手だからね。それだけじゃな
いよ。棋譜をよく見てごらん。

先手と後手の各々の着手 15 手の棋譜は、
順序の違いを除けば同一なんだよ。いわ
ば、『アナグラムな対局』だったんだ」

さて、アナグラムな対局とはどのような将棋
でしょうか？

二人の会話を元に推理してください。

条件

- 1) 30 手目に 3 回目の王手で詰んだ
- 2) 先手と後手の各々の着手 15 手の棋譜が順序
の違いを除き同一 (注*)
- 3) (棋譜上)77 角、77 角成、77 馬の手あり
- 4) 16 手目は 2 回目の駒打ち
- 5) 30 手目に別の手を指せば後手陣だけ初形に
戻すことができた。(後手陣の 1~3 段目を初
形配置 20 枚にできた)

注* 先後同一着手：棋譜が(表記上)同一で
あれば着手内容は問いません。

例)

- ・ ▲76 歩△34 歩▲77 桂△同角成▲58 玉△22
馬▲同角成△77 桂の場合、3 手目と 8 手目、
4 手目と 7 手目はそれぞれ同一扱いです。
- ・ ▲56 歩△54 歩▲55 歩△同歩の場合、3 手目
と 4 手目は同一になりません。

☆手数短縮型問題でもありますので、「先後同一
着手」の 28 手以下の解は超正解として加点
します。

■ 40-11 一乗谷酔象氏作 (再掲)

推理将棋『生駒王手 4 回のスタイルメイト』

博士「新定跡の研究は進んでいるかな。

たまには一局やるか」

助手「はい。」

今度は私の先手番でお願いします」

- ・・・ 29 手目先手の着手の後、
30 手目後手の手番で・・・

博士「まだ詰まされていないけど後手に指す手がないから仕方ないね。負けました」

助手「ありがとうございました。
感想戦をお願いします」

博士「序盤から王手を食らいすぎたよ。
成駒の王手はなかったけど、17手目が早くも4回目の王手だったからね。」

助手「ええ、不成の多い将棋で6回も不成の手がありましたね」

博士「角が成られた直後の応手がおかしかったかな」

助手「ええ、2回ありましたけど、着手した駒はいずれも香の効きに入っていました」

博士「金を取られた直後の応手もおかしかったかな」

助手「ええ、2回ありましたけど、いずれも歩の手でした」

博士「銀を取られた直後の応手も変だったよ」

助手「ええ、2回ありましたけど、いずれも駒が直進する手でした」

博士「そもそも2手目飛車の作戦がおかしかったようだね。
角頭の歩の手も悪手だったし」

さて、「生駒王手4回のスタイルメイト」とはどのような将棋でしょうか？
二人の会話を元に推理してください。

条件：

- 1) 29手目を指した局面がスタイルメイト
(30手目の後手番で指す手がない)
- 2) 不成が6回あり、成駒の王手はなかった。
- 3) 17手目は4回目の王手。
- 4) 後手の指し手が以下の条件を満たすこと
 - a) 2手目に飛車の手を着手した。
 - b) 角頭に歩の手を着手した。
 - c) 角を成られた直後、後手は(いずれも)香の効き(のある地点)に着手した。
 - d) 金を取られた直後、後手は(いずれも)歩の手を着手した。
 - e) 銀を取られた直後、後手は(いずれも)駒を直進する手を着手した。

☆今回の出題では以下のヒントを追加します。

ヒント1：最終玉位置は 85

ヒント2：2手目は 92 飛

☆なお、上記のヒント1及びヒント2を満たす29手解は「準正解」として扱いますので、元の条件に合わなくても、こちらの条件に合えば、解答をお送りください。

推理将棋第57回出題 担当：DD++

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第56回出題です。はじめての方は

どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門

(http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html) をごらんください。

解答、感想はメールで2012年7月20日までにTETSUまで (omochabako@nifty.com) メールの名前は「推理将棋第57回解答」でお願いします。

推理将棋第57回出題 担当 DD++

今回は新進気鋭の作家、鈴川優希さんの特集です。初級中級は焦点着手をテーマにした姉妹作。条件はよく似ていますが、解いて浮かび上がる手順は……。上級は某お笑い芸人のネタを彷彿とさせる問題。手数も長めで正面から挑むとかなり大変なので、裏読みも駆使しながらどうぞ。

■練習問題

「さっきの将棋、▲76歩△34歩▲22角成△32銀▲88馬△42玉まで見てたけどどうなった？」
「9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

■本出題

57-1 初級 鈴川優希さん作

5枚の焦点 9手

後手が初形から最も簡単に5枚の利きを重ねる方法は？

57-2 中級 鈴川優希さん作

5枚の焦点II 10手

後手が打つ角をさてどうやって入手しましょう。

57-3 上級 鈴川優希さん作

世界のナベアキ 15手

それぞれの駒打ちの内容をある程度決めてかかるのが肝要。

■締め切り前ヒント (7月16日 DD++)

締め切り前ヒントです。

初級：5手目に焦点へ打った角を6手目に取りすぎてしまいます。角は横利きがないことを利用して退路封鎖に使いましょう。

中級：後手が打った角は最初に22にいた方の角。トドメは桂馬です。

上級：7手目に8筋へ銀打ち、8手目に一段目に香打ち、さらにもう一度13手目にもトドメで61へ成るための銀打ち。

57-1 初級 鈴川優希さん作

5枚の焦点 9手

「隣の将棋、9手で詰んだって？」
「うん。5枚の後手駒が利いている地点に、先手が着手したのが印象的だったなあ」
「5枚の焦点だって?! 先手は詰将棋作家だったのかな」
「いや、7手目のあの馬の手は、将棋指しが好むような手だったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・9手で詰んだ
 - ・先手は5枚の後手駒の焦点に着手した
 - ・7手目は馬の着手
- ※間に別の駒がある場合は利きがあるとはみなしません。例えば初形で84に利いている後手駒は83歩の1枚だけ。82飛はここでは84に利いている駒には数えません。

57-2 中級 鈴川優希さん作

5枚の焦点II 10手

「隣の将棋、5枚の焦点に着手があったよ」
「それ、さっきも聞かなかったっけ」
「いや、別の将棋だよ。もっと詳しく説明すると、先手の玉、飛、角、金、銀が利いている地点に、後手が角を打ったんだ」
「なるほど。それで、どっちが勝ったの？」

「10手で先手玉が詰まされてた」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 10手で詰んだ
- ・ 先手の玉、飛、角、金、銀の焦点に、後手は角を打った

5 7-3 上級 鈴川優希さん作
世界のナベアキ 15手

「昨日の竜王戦、すごかったな。手数に3の倍数の時に成る手が、5の倍数の時に同のつく手が指されたんだ」

「まるで、どこかのお笑い芸人だね」

「でも流石は竜王、15手で詰まして快勝だ。1段目に小駒打ちがあったり、8筋に小駒打ちがあったり、面白い内容だったよ」

「防衛目指して頑張ってください」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 15手で詰んだ
- ・ 3、6、9、12、15手目は成る手
- ・ 5、10、15手目は同のつく手
- ・ 1段目に小駒打ちがあった
- ・ 8筋に小駒打ちがあった

■練習問題解答

問題以下、▲33馬△31玉▲22角まで。

88馬は無駄手で、これを省いた8手がミニベロさんの名作「4-2 可愛い8手」の手順です。この手順は作意順として使われる以上に余詰順として登場することが多く、なかなか作家泣かせの順。推理将棋を作る時には要注意！

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	
二		飛					銀	角		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	馬	歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒なし

Fairy of the Forest #32出題

- 2012年05月20日：課題発表：(協力詰)
合利かずの詰上り(両王手を除く)
- 2012年07月15日：投稿締切
- 2012年07月20日：出題
- 2012年08月15日：解答締切
- 2012年08月20日：結果発表

■ 出題

今回の「合利かずの詰上り」という課題について、神無太郎氏よりー

創作の観点からは酷い(縛りの強すぎる)課題。それでも、まだこんなのが残っていたのかと思える作を考えるきっかけにはなったので、よしとしよう。

作家の皆さんには不評だったようですが、それでも7題集まりました。感謝あるのみです。02は詰上りで攻方駒が余りますが、唯一解ということでご海容ください。また、07は受方持駒に制限があります。

1題でも解けた方は、下記まで解答・感想をお寄せください。

(解答先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

■ 32-01 神無太郎 協力詰 7手

					角	飛	金	金	
				角	金	金	飛	銀	
				王					

持駒 なし

■ 32-02 神無太郎 協力詰 9手 (駒余り詰)

						金	香	香	香
						歩	歩	歩	歩
						王			

持駒 飛

■ 32-03 北村太路 協力詰 15手

銀	銀	銀	金	金	金	金	角	角	
銀	香	香	歩	歩	歩	歩	歩	飛	
桂	香							歩	
桂	香								
桂									
桂								王	
						龍			
								ス	

持駒 なし

■ 32-04 神無太郎 協力詰 15手

					金	金	銀		
					金	金			王
					香	香	歩	王	
					香	香	歩		飛

持駒 なし

■ 32-05 北村太路 協力詰 29 手

								馬	と	一
									と	二
								歩		三
								香	と	四
金	金	歩								五
飛	歩							香	と	六
飛	金		銀	歩	歩	銀			と	七
銀		桂	歩	香	香	歩	香		と	八
角	銀	王			と	と	と	と		九

持駒 桂3

■ 32-06 小林看空 協力詰 31 手

										一
										二
										三
										四
								と	飛	五
			銀	銀	歩	香			飛	六
銀	金	銀	金	香	歩	香	王			七
角	香	角	香				桂	桂		八
入		桂		歩			桂	金		九

持駒 なし

■ 32-07 神無七郎 協力詰 63 手(受方持駒=歩 11)

										一
										二
										三
					歩	歩	龍			四
				金	歩	香	歩	歩		五
			金	歩						六
			歩	王						七
										八
			王							九

持駒 飛

第42回WFP作品展Bコース 解答再募集結果

担当: 神無七郎

第42回WFP作品展は42B-3、42B-4、42B-4'の3つが解答者なしとなったため、解答期間を延長して解答の再募集を行いました。

今回42B-4については橘圭伍氏から解答を戴きましたが、残る2題は結局解答0のままでした。新作の出題もありますし、再々出題しても解答が集まる見込みは薄いので、42B-3についてはここで解答を発表したいと思います。

また、今回の結果稿では42B-4の作意解及び余詰解と42B-4'を「推理将棋」の形式に直したバージョンを紹介しますので、興味を持たれた方はこれを参考に42B-4'及びその「推理将棋」版の解についても考えてみてください。解答は次回の結果稿でご紹介したいと思います。特に解答募集は行いませんが、解答やコメントが寄せられた場合は、それも合わせて結果稿に収録したいと思います。

■ 42B-3 神無太郎氏作 (正解者なし)

命名『矢拵II』

Kマドラシ協力自玉スタイルメイト 52手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
									王	三
										四
										五
										六
王										七
										八
										九

攻方持駒桂25

受方持駒∞

【ルール】

• (K)マドラシ

同種の敵駒が互いの利きに入ると、利きがなくなる。玉も互いの利きに入ることができ、互いの玉の利きがなくなるものを「Kマドラシ」と呼ぶ。

• 持駒：∞

指定駒を無限に持っていることを示す。指定が特にならない場合は、全種類の駒を無限に持っていることを示す。

【解答】

89 桂 96 玉 88 桂 85 玉 97 桂打 84 玉
96 桂打 73 玉 85 桂打 72 玉 84 桂打 61 玉
53 桂 52 玉 64 桂 72 桂 44 桂 53 玉
65 桂 73 桂 45 桂 64 玉 56 桂 65 玉
77 桂打 56 玉 68 桂 76 桂 48 桂 45 玉
57 桂 65 桂打 37 桂 44 玉 56 桂打 64 桂打
36 桂打 33 玉 45 桂打 53 桂 25 桂打 32 玉
44 桂打 52 桂 24 桂打 21 玉 33 桂打 41 桂
12 桂成 同玉 24 桂打 32 桂 まで 52 手

(最終形)

					我					一
		我	我	我		王				二
		我	我	桂		王				三
	桂		我	桂		桂				四
	桂		我	桂		桂				五
桂		我		桂		桂				六
桂		桂		桂		桂				七
	桂		桂		桂					八
	桂									九

攻方持駒なし

受方持駒∞

【解説】

矢拵（やがすり）とは日本の文様の一つで、次のような図柄のことを指します。



(矢拵)

本作の最終図を見た人の中には「矢拵というより縦長の蜂の巣模様じゃない？」と思う方もいらっしゃると思いますが、まあ細かいことは気にせず、「矢」の形になっている箇所を見てください。また、「なぜ矢拵『II』なの？」と疑問を持つ方もいらっしゃると思いますが、その辺りの内幕は作者自身から語られると思います。

さて、本作は2つの点でとても現代的なテーマを含んだ作品です。

一つは、「規則性と不規則性の混在」。本作の最終図に見られる幾何学的な模様は、本作のセッティングから規則的な手順が生成されることを示唆しています。一方、模様の部分的な欠損

や、全体的に右斜めに傾いた形は、規則性を乱す何らかの要素の存在を示唆しています。攪乱要素の候補は「盤端の影響」「可成地域の存在」「攻方王の位置」の3つが考えられますが、もしこれらの要素がなかったら（例えば盤が9×9より広く、桂の枚数もそれに応じて拡張されていて、桂成を必要としない収束が設定されていた場合）完全に周期的な手順が出現するかどうかは現時点では不明です。（本当は解説者としては「不明」という説明は避けたいのですが…）

もう一つは「半端な傾きの繰り返し趣向」。詰将棋における繰り返し趣向は、縦横か斜め45°の方向に駒や状態が推移するものが主でした。本作は断片的とはいえ、1対2の傾きに沿った上昇や下降を伴う繰り返し手順が出現します。桂が主役だから不思議ではないという見解もあるかと思いますが、まだまだ未開拓な分野であることは間違いありません。

では、本作の具体的な仕組みを見ていきましょう。本作品展で何度も繰り返していますが、桂は大変消しにくい駒です。例えば初形から「89桂 88玉」と進めてみてください。桂が消えないばかりか、手を続けることさえできません。玉を3段目まで落とせば「〇〇桂成 同玉」で消すことができますが、それまでの過程で盤上に残った桂をどう処理するかが問題になります。当然、桂を跳ね出していく手数に余裕など与えられていません。

これらを考慮すると、なるべく桂の連打だけでスタイルメイトの状態を作り出さねばなりません。その方法は「玉を下段に落とす時」と「玉を上段に引っ張り出す時」で分かれます。

「玉を下段に落とす時」は「なるべく桂の利きに桂を打つ」という方法を使います。本作の序盤の進行は正にそれです。

(途中図) 7手目の局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								王	三
	王								四
									五
桂									六
桂									七
	桂								八
	桂								九

ここでは打った桂の左側の利きが埋まっていますが、右側は空いたままです。これをどう処理するかは後で考えましょう。

「玉を上段に引っ張り出す時」は「なるべく桂を取るように玉が動く」が基本です。本作の12手目の局面を見てください。

(途中図) 12手目の局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			王						一
									二
								王	三
	桂								四
	桂								五
桂									六
桂									七
	桂								八
	桂								九

攻方持駒 桂19

ここで左辺に置かれた桂を無視すると

53桂 52玉 44桂 53玉 45桂 44玉 …

のように、打った桂の後を追うように玉を進める手順が考えられます。

さて、上昇・下降の基本は分かりましたが、先程無視した左辺の桂の処理はどうしたら良いのでしょうか？

上図からの4手でその答えが示されます。

53桂 52玉 64桂 72桂 …

玉を引っ張り出す時の手順に左辺に取り残された桂を石化するための2手を追加していくわけですね。事情は玉を下段に落とす時も同じで、それまでの配置で動ける状態になっている桂を石化する手を、基本的な手順に適宜挟みながら玉を追っていきます。

そうすると、序盤の桂の打ち方は大変重要です。最初の方でどう桂を並べて行くかが、後々の手順に影響を及ぼすからです。

さて、桂を石化していく手順を考えると、もう一つ重要なのが、「〇〇桂成 同玉」という切り札を使うタイミングと場所をどうするかです。桂の連打で桂を消す手順は無駄が少ない反面、常に1枚は桂が残ります。桂が2段上に動くの対し、玉は周囲の1マスしか動けないので、玉を2回分動かさねば、最後に残った桂を消せ

る場所に玉を誘導できません。従って、この切り札は必ず1回は使わねばなりませんし、手数と桂の枚数を考えると2回以上使うことはできません。タイミングについては玉が攻方の王の近くにきたとき、というのはほぼ確定ですが、場所については12・22・23がどれも有力候補で作意の12が自明とは言えません。

結局、手順の基本パターンは分かるものの、序も収束も途中の手順も一定の自由度があり、その想定次第で手順も大きく変わるため、解答者にとってはかなりの難問となってしまったようです。特に9筋に受方の桂を打たない序盤は、早く桂の利きを消したい心理の逆を行く、難しい手順だったのではないのでしょうか。

解図が困難だけでなく、この作品は検討も大変です。普通の使い方ではf mといえど検討は終わりません。解を検出することさえ困難です。その難題にどう対峙したか……これは作者自身に語っていただけるはずなので、その「自戦記」にご期待ください。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

強めのオプションつけてFMにかけてますが何百億局面になっても、ダメです。これぐらいボリュームのある作品だとFMでの解最短発見時間、局面数を得られるオプションの組み合わせを募集するという企画もありかと思ってしまう。とりあえず後世に残る作のような気がします。

☆ f mの/E オプションの中にはスタイルメイト向きのオプションがいくつかありますが、それだけでは本作の解を求めることはできません。ただし、単独の手段で検討が難しい場合でも、複数の手段を使って精度の高い検証をすることは可能です。もちろんその過程でもf mの様々な機能を使うのですが、この辺りも神無太郎さんの自戦記は大変参考になると思います。

一乗谷酔象さん（※無解）

駒枚数と収束を組み合わせるのが難しく、持駒桂22枚の46手解まではたどり着きましたがあと3枚の処理がどうしても手順に組み込めませんでした。

☆ 一乗谷氏からは別件のメールの中で本作へのコメントを戴きました。一乗谷氏でも苦戦するのですから、本作の難度は半端ではありません。

■ 42B-4 一乗谷酔象氏作（正解者1名）

推理将棋『狭い所で長期戦』

「昨日、奇妙な将棋を見たよ。金の手を指した2手目以降の着手は四カ所だけ、それも縦2マス横2マス、ある2×2の範囲内だけだった」

「へえ、それは珍しい。そんな狭い所だと、すぐに決着がついたんだろうね」

「いや、狭い所でも激しい攻防が長く続いたよ。駒を打った場所は1カ所だけだったけど、駒を打った2手後は必ず、駒打ちのあった場所の隣の筋に着手していたね」

「へえ、何手で詰んだの」

「たしか63手目に駒を打って詰みだったよ」

「そりゃすごい。でも、千日手模様じゃなかったかい？」

「いや、先手の着手の棋譜はダブっていなかったし、同一局面もなかったよ」

条件：

- 1) 63手目に駒を打って詰んだ
- 2) 2手目は金
- 3) 2手目以降はある2×2の範囲内の四カ所の着手のみ
- 4) 駒を打った場所は1カ所だけ
- 5) 駒を打った2手後は必ず、駒打ち場所の隣の筋に着手
- 6) 先手の着手に（棋譜表記上）重複なく、同一局面もなし

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

76歩 32金 33角成 42銀 43馬 33桂
同馬 43金 42馬 同金 43銀 33金
32銀生 42飛 43銀生 32飛 同銀生
43角 同銀成 32金 33全 42金 43全
33金 32全 43金 42全 同金 43角
33金 32角生 43銀 同角成 32金 33馬
42金 32馬 33金 43飛 32金 33飛生
43金 32飛生 33金 42飛生 32金 43飛生
42金 33飛成 32金 43龍 33金 32龍
43角 33龍 32角 同龍 33角 43金
42角 33金 同角 43桂 まで 63手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞	王				皇	一
						龍			二
歩	歩	歩	歩	歩	桂	馬	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

攻方持駒角 銀 歩2

受方持駒金

【作者のコメント】

2×2の狭い所で最長手数となるような手順を構成したところ、「回転」がテーマの推理将棋となりました。たとえば、

- ・ 銀の場合、
 43 銀(打)→32 銀不成→43 銀不成→
 (32)同銀不成→(43)同銀成→33 成銀→
 43 成銀→32 成銀→42 成銀
- ・ 飛の場合、
 43 飛(打)→33 飛不成→32 飛不成→
 42 飛不成→43 飛不成→33 飛成→
 43 龍→32 龍→33 龍→(32)同龍

のように回転させて長手数指させます。途中「同X」を織り込んで棋譜表記上の重複を避けるのがポイントです。

なぜか Fairy of the Forest #31 の課題「回転」にぴったり合致していました。本作は推理将棋ですので、WFP 作品展に投稿します。こちらのみ、できれば、FOF の出題 (たぶん WFP46 号) と同じ号で出題していただきたく思います。

【解説】

「狭い所で長期戦」と題された本作。本質は2×2の狭い領域で、同一局面を避けながらどれだけ手を伸ばせるか、という問いです。ただし、それだけの条件では収拾がつかないので、先手の着手に重複がないという条件と、駒打ちは一箇所だけという条件で大幅に絞り込みを行い、いくつかの細かい条件を付けて推理将棋と

して成立させています。

本作は条件を整理すると、2×2の領域が32・33・42・43 であることはすぐに分かりますし、最終手が43 桂であることもほぼ確定できます。厳密には33 角で詰む可能性も考えねばなりませんが、手順の組み立ては43 桂より困難なので、早々にこの可能性は排除せざるを得なくなります。

次に、駒の「回転」について考えましょう。先手の着手に重複がないようにするので、後手の手はとりあえず無視します。桂はトドメの駒なので除外するとして、回転に登場できる可能性のある駒は飛角金銀龍馬全の7種類です。動ける箇所は4箇所ですから、7×4=28。あれ？ 少し足りなくないですか？ 序の2手と最終手の1手、それに受方の手も合わせて59手にしかなりません。

ここで着手の違いを「棋譜表記上」で行うことが大きく効いてきます。例えば「同」を使えば、同じ箇所に同じ駒が動いても、棋譜表記上は別の着手になります。(その反面、違う箇所の「同」も同じにみなされるので、使用法は要注意です。) また、「打」は表面に出ませんが、先手の駒が可成地点に着手されるので、「生駒の移動」と「打」でも差を出すことができます。ただし、同種の駒を2枚調達は出来ないのも、残念ながら「右」「左」などで差を出すことはできません。

さて、ここからは具体的に手順を構築する作業です。「同」ですべての駒が1回ずつ動かせる回数が増えたとすれば、7×5=35。更に生駒は「打」で回数を稼げたとして、4回着手が増える可能性があります。これなら楽々63手を越える気がします。各着手は繋がるものと、繋がらないものがあるので、一連の手順として成立させるのは楽ではありません。特に駒打ちを43に制限されているのが大きく、多くの紛れが打ち消されてしまいます。

では実際には各駒は何回動けたか、作意に沿って確認してみましょう。飛の回転と銀の回転については既に作者のコメントで触れられていますが、ここでは他の駒の回転と合わせ、改めて確認したいと思います。

- ・ 飛の動き (10回)
 43 飛→33 飛生→32 飛生→42 飛生→
 43 飛生→33 飛成→43 龍→32 龍→
 33 龍→(42)同龍

・角の動き（9回）
 33 角成→43 馬→(33)同馬→42 馬
 （ここで馬は一旦取られて打ち直し）
 43 角→32 角生→(43)同角成→33 馬→32 馬

・金の動き（2回）
 43 金→33 金

・銀の動き（9回）
 43 銀→32 銀生→43 銀生→(32)同銀生→
 (43)同銀成→33 全→43 全→32 全→42 全

飛&龍は上限に近い 10 回、次に角&馬と銀
 &全が上限より僅かに 2 つ少ない 9 回。非常に
 効率の良い手順です。

ただし、金の動きは上限より 3 つ少ない 2 回。
 もし本作に改良の余地があるとすればここなの
 ですが、実際に金の絡みで、作者の想定外の手
 順があり、本作は余詰作となってしまいました。
 指摘者は橋圭伍氏。以下にまず、氏のコメント
 を掲載します。

【短評】

橋圭伍さん（※余詰解）

遅れましたが解答を出しておきます。
 余詰指摘後に修正されていないと思います
 ので大丈夫だと思います(mixi の方で作者に
 指摘したのと同順です)。
 2×2 という事で先手の手を分割して最後に
 合成するという手法を使って解きました。
 同一局面にならないように注意すればそれ
 程解くこと自体は難しくないとします。
 これを弄れば 69 手位までは比較的簡単に伸
 びるんですがちょっと練る時間がないので
 最長解探しの方は断念です。

☆ 実は橋氏は mixi で作者に余詰の存在を知ら
 せており、そのおかげで前号の余詰告知がで
 きたのでした。橋氏の解答は次の通りです。

76 歩 32 金 33 角成 42 金 43 馬 32 銀
 同馬 同金 43 銀 42 金 32 銀生 43 角
 同銀生 33 金 32 銀成 43 金 33 全 42 金
 43 全 33 金 同全 32 飛 42 全 同飛
 43 金 32 飛 33 金 43 銀 32 金 同銀
 43 角 33 銀 32 角成 42 銀 33 馬 43 金
 32 馬 33 銀 42 馬 同金 43 飛 32 金
 33 飛生 42 金 32 飛生 33 桂 同飛生 32 金

43 飛生 33 金 42 飛生 43 金 32 飛成 42 金
 33 龍 43 角 32 龍 33 金 43 龍 32 金 同龍
 33 角 43 桂 まで 63 手

☆ この解における各駒の動きをまとめると、以
 下ようになります。

・飛の動き（11回）
 43 飛→33 飛生→32 飛生→(33)同飛生→
 43 飛生→42 飛生→32 飛成→33 龍→
 32 龍→43 龍→(32)同龍

・角の動き（8回）
 33 角成→43 馬→(32)同馬
 （ここで馬は一旦取られて打ち直し）
 43 角→32 角成→33 馬→32 馬→42 馬

・金の動き（3回）
 43 金→33 金→32 金

・銀の動き（8回）
 43 銀→32 銀生→(43)同銀生→32 銀成→
 33 全→43 全→(33)同全→42 全

☆ この解では金の動きが増えたのと、飛の動き
 が理論上の限界値に達しているのが一際目
 につきます。作者によると、「金は残さない
 と手が続かないとの思い込みから見落とし
 です。はじめに金を消すことが盲点になっ
 てしまいました」とのことです。
 その後、作者は作意と余詰を元に 71 手まで
 手数を伸ばすことに成功し、修正案を作成さ
 れました。ただ、元の問題と同じくらい検討
 が困難なのと、条件の多さが解答意欲を削ぐ
 のを避けるため、作者と筆者で相談して、条
 件の緩い長手数競争型の解答募集を行うこ
 とにしました。それが次の問題です。

■ 42B-4' 一乗谷酔象氏作（解答者なし）

上記問題のうち、以下の 3 条件のみを満たす、
 71 手以上の解を求めてください。

条件：

- 1) 2 手目以降はある 2×2 の範囲内の四カ所
 の着手のみ
- 2) 駒を打った場所は 1 カ所だけ
- 3) 先手の着手に（棋譜表記上）重複なく、
 同一局面もなし

- ☆ このように長手数競争型で出題しましたが、残念ながら解答ありませんでした。
- ☆ 次に長手数競争型にアレンジする前の、作者のオリジナルの修正案を紹介します。解答募集は行いませんが、作意手順は次の結果稿で掲載致しますので、我と思わん方は次号発行までの時間を利用して、解図にチャレンジしてみてください。71手は究極の手数に近い気がするのですが、果たして…？

■ 42B-4 (修正案) 一乗谷酔象氏作

推理将棋『狭い所で長期戦』

「昨日、奇妙な将棋を見たよ。金の手を指した2手目以降の着手は四カ所だけ、それも縦2マス横2マス、ある2×2の範囲内だけだった」

「へえ、それは珍しい。そんな狭い所だと、すぐに決着がついたんだろうね」

「いや、狭い所でも激しい攻防が長く続いていたよ。駒を打った場所は1カ所だけだったのね。たしか71手目に駒を打って詰みだった」

「そりゃすごい。でも、同じ手順を繰り返す千日手模様じゃなかったかい？」

「そういえば、後手は2手目から同じ駒を3回連続動かしていたし、それと同じ手順を40手目からと50手目からも指していたね。でも、先手の着手の棋譜はダブっていなかったし、同一局面もなかったよ」

条件：

- 1) 71手目に駒を打って詰んだ
- 2) 2手目以降はある2×2の範囲内の四カ所の着手のみ
- 3) 駒を打った場所は1カ所だけ
- 4) 先手の着手に(棋譜表記上)重複なく、同一局面もなし
- 5) 後手は2手目から同じ駒を3回連続動かした。
- 6) 後手は、2,4,6手目と(棋譜上)同じ手順を40,42,44手目にも指し、更に50,52,54手目にも指した。

【総評】

橘圭伍さん

推理将棋の方に延期したのに解答がないという事なので送ります。1ヶ月程前には既に

解けていたんですが……誰かが解くだろうと思って手抜きしてました。
時間があれば他のものも思ったんですが作図で遊んでいたら時間がなくなりました(笑

- ☆ 今月も第43回Bコースに一乗谷氏の難問が待ち構えています。下手をすると今回も解答者なしという事態になりかねません。推理将棋分だけでも良いですから、ぜひ解答をお寄せください。 以上

「第37回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第37回神無一族の氾濫」(詰パラ12月号掲載予定)へのゲスト参加を募ります。

今回は「利きのない駒を使う作品」を募集します。普通詰将棋では盤上に利きのない駒は存在してはいけませんが、フェアリーでは必ずしもそうではありません。対面のように利きがなくても性能変化で動ける位置なら良いものや、マドラシのように利きが消える状況があるもの、あるいは明示的に利きのない駒を使用する場合があります。

利きのない駒が初形あるいは手順中のどこかで存在するフェアリー作品を送ってください。

作品要件	利きのない駒を使う作品
募集締切	2012年10月14日(日)
募集作品数	4(+α)
送り先	神無七郎(janacek789@ybb.ne.jp) 上記宛先へE-mailでお送りください。
備考	1人何作でも投稿可 採否は10月21日までに通知



推理将棋第56回出題解答 担当：DD++

出題： 平成 24 年 6 月 4 日
 解答締切： 平成 24 年 6 月 20 日

推理将棋第56回解説 担当 DD++

今回は上級がかなりゴツイ見た目なので敬遠される方が多いかと思いましたが、出題時コメントでがんばったお陰なのかそのような事態にはならず一安心でした。

56-1 初級 DD++作

船囲いを崩すには 9手

「さっきの将棋、▲96歩△52金右▲97角△42玉まで見てたけどどうなった？」

「9手で詰んだよ、って言えば残りの5手は分かるよね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 指し始めは▲96歩△52金右▲97角△42玉

出題のことば (担当 DD++)

練習問題よりちょっと長い手数にチャレンジ。
 追加ヒント：

52に上がっている金を奪って、その打ち場を後手に空けてもらいましょう。。

推理将棋56-1 解答

▲9六歩 △5二金右 ▲9七角 △4二玉
 ▲5三角成 △3二玉 ▲5二馬 △4四歩
 ▲4三金 まで9手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	桂	銀			▲	馬	▲	王	▲	一
		▲			▲			▲		二
▲	▲	▲	▲		▲	▲	▲	▲		三
					▲					四
										五
▲										六
	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	七
								▲		八
▲	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香		九

持駒 歩

練習問題よりも2手長い手数ですが、練習問題とあまり大差ない難易度の問題です。

先手は7手目に駒を取りたいので、まず5手目で歩の壁を破るため53角成もしくは53角不成。当然王手を回避するのですが同金では終わってしまうので51玉か32玉の2択。ここから先手が31銀を狙うか71銀を狙うか52金を狙うか。このうちあと2手で詰むのは53角成32玉から52の金を狙う場合だけ。後手が歩を突いて43地点を開けるのが好アシストでした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

渡辺 「これは手なりで詰みますね。」

■まさしくそれが狙いです。初解答者でも解きやすいかと思ひまして。

はなさかしろう 「後手が△42玉と顔面を晒しているの解く方はどうしようもなく解けてしまいましたが、▲76歩—▲44角の出だしならこんな形でも余詰んでしまう...ここでもセンスが光ってますね。」

■44角よりも97角の方が5手目が見えやすいだろうという狙いだったのですが、言われてみれば44角だと確かに余詰む……

妙高仙人 「ここまで種明かしをすれば。」

■初心者向けですからこれくらい明かさないと。

朱 「出だしの棋譜と手数のみが条件の問題はとつき易く嬉しいです。玉のコピンを開ける△44歩がうまい手。」

■推理将棋は玉の方が妙手が多かったり。

はらたっと 「53角生から銀を取る筋が詰まないの馬で金取るしかないかなあと。」

■金が二段目に上がる場合は銀打ちでは詰みにくいのですよ。

NAO 「例題級の5手詰でした。」

■こんな問題もたまにはいいでしょう？

斧間徳子 「大サービス問題。44 歩が盤上この一手のココセ。」

■推理将棋の後ろから2手目はいつもこんな手。

星の平原 「5手目もほぼ必然で、6手目も二択だけど△5一玉では玉の逃げ場が多すぎるので△3二玉のほぼ一択。あとは△4四歩の発見のみですね。随分推理将棋の思考に慣れてきました(笑)」

■今回は解く技術が身につく問題が多かったかもしれませんね。

鈴川優希 「船囲いが跡形もなく……。」

■一瞬で難破船に。あ、タイトル「難破船」にすればよかったかなあ。

KG 「これはさくっと解けました。」

■KGさんクラスならこれくらいで悩まれては困ります(笑)

S.Kimura 「44歩が好手でした」

■この歩は9手詰だと一番よく突かれる後手歩ではないでしょうか。

宮谷保可楽 「詰み形を脳にインプットさせる問題。」

■この形、意外と作例少なかったりするんですけどね。

たくぼん 「ちょっとだけ盲点に入りました。入門編では理想的ですね。」

■これが盲点にというと、角は不成で使うに違いないと決め打ったとかそのあたりですか？

諏訪冬葉 「金を取る手が簡単に浮かんだのですぐ解けました。」

■お見事。

変寝夢 「余詰筋で出てきそうな順。エレガントさは感じないなあ。」

■同系統問題でもっと面白い順になる問題もあるのですが、初級なので手のつけやすさ優先で選択。

平井康雄 「さすがにこれは秒殺でした。あまりにも早く解いてしまったので、感想も忘れてしまった。」

■さすがに簡単すぎでした？

ron 「まずはウォーミングアップ。5手考えるだけなので楽ですね。」

■事実上ただの非連続王手の協力詰5手ですしね。

占魚亭 「これは簡単でした。」

■簡単すぎて解説を書くのが逆に大変でした。

鈴木康夫 「確かに舟囲いですね。」

■一瞬しか存在しませんけどね(笑)

隅の老人B 「9手で最初の4手を教えてもらえば、さすがに爺さんでも解けました。」

■素晴らしい。

正解：22名

S.Kimuraさん 斧間徳子さん かめぞうさん
KGさん けんけんさん 朱さん 鈴川優希さん
鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん
占魚亭さん たくぼんさん NAOさん
はなさかしろうさん はらたつとさん
平井康雄さん 変寝夢さん 星の平原さん
宮谷保可楽さん 妙高仙人さん ronさん
渡辺さん

56-2 中級 けいたんさん作
飛成でも詰み 10手

「さっきの将棋どうなったの？

後手が玉を動かしたところまで見ていたけど」

「10手で先手が詰まされたよ。

とどめは歩成だったね。

とどめで飛成でも詰んでたけど」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 10手で詰んだ
- ・ 後手が玉を動かした
- ・ とどめは歩成
- ・ とどめで飛成でも詰んでいた

出題のこぼ (担当 DD++)

最終手は歩成の方が正解です。解答時にお間違いないように。

追加ヒント：

47地点に歩と飛の焦点を合わせます。46歩を打つためには？

推理将棋 5 6 - 2 解答 担当 DD++

- ▲ 7 六歩 ▽ 3 二飛 ▲ 3 三角成 ▽ 6 二玉
- ▲ 4 三馬 ▽ 3 七飛不成 ▲ 4 八玉 ▽ 4 六歩
- ▲ 5 九金左 ▽ 4 七歩成 まで 10 手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	王		王	龍	科	皇	一
			王				皇		二
歩	歩	歩	歩	歩	馬		歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	ス	龍	歩	歩	七
					王		飛		八
香	桂	銀		金	金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

理詰め問題のお手本のような問題。10手だったので中級にしましたが、初級でもよかったのかもしれない難易度です。

後手から順に考えてみましょう。最終系は明ら

かに歩と飛が共通の利きを持っています。飛が歩の後ろから利いている形では飛成ができないので、飛車は横から利く形になりますね。それを踏まえて後手の手数をカウントしてみます。

まず成るための歩を用意する手が最低1手、そしてトドメの歩成が1手。さらに条件にある玉の手が1手。あとは飛車を7~9段目に用意する手ですがこれに最低2手。これですでに後手は許される着手数を限界まで使ってしまいます。つまり歩は駒打ちで1手で用意するしかなく、飛も33歩をかじってもらって32飛から37飛不成とする以外では手数オーバーになるのです。

歩を打つのは当然歩を取った後でなければできないので、着手順も「76歩、32飛、33角成、玉逃げ、馬移動、37飛不成、何か、46歩、何か、47歩成」しかありません。46歩を打つためには馬移動で43歩を取ってもらうしかなく、それが王手にならないためには玉の移動先は62限定。あとは残る2手で玉を最後が頭金になる位置へ移動させ、59の退路を塞げば完了です。

このような理詰めで解く問題は当然ながら余詰が出にくく、問題を初めて作る場合はこのタイプの問題を目指してみるといいかもしれませんね。

それではみなさんの短評をどうぞ。

渡辺「飛成でも歩成でも詰む→後手歩打→先手歩取り、で43馬、48玉の形を考えるのはすぐ。」

■ 一見 53角 58玉も候補ですが渡辺さんはさすがにハマりませんか。

はなさかしろう「面白くて簡素な条件づけで解き心地の良い問題でした。自飛車出動で後手が玉を動かしたとなるともうこの5手目までは一連の手筋ですね。」

■ こんな感じの条件で↓みたいな無駄手限定というのもあったり。

朱「最初5筋で詰むと予想(76歩、44歩、同角、42飛、53角不成、47飛不成、58玉、52玉、...)。しかし手数が足りない。飛車を3筋から出動させ4筋で詰ますのが最速でした。」

■12手あればその順ができますね。この玉限定は作意にされたらなかなか難問の予感。

妙高仙人 「『玉の手』の条件を省略できないのが残念。」

■見方によってはこれがあるから親切とも。

はらたっと 「62玉 43馬という手順に感心しました。」

■地味ながらうまいやり取りです。

NAO 「場所を明かさな推理条件。10手で飛車成なら使う筋も限られ手順も締まりますね。」

■10手で3筋4筋以外からの飛成って可能なんではないか？ あ、7筋はできそうかな？

斧間徳子 「『後手が玉を動かした』という条件により、32飛～37飛が浮かんで解けた。これを『6筋に着手があった』などの抽象的な条件に変えられたら難問になりそう。」

■それは確かに難問！

星の平原 「4七に飛車を置く形ばかり考えてて、3七に置く手が完全に盲点になってました。四手目限定のための『後手に玉を動かす手あり』という条件もシンプルですっきりしてますね。」

■4筋攻めの速さがわかると3筋攻めは考えからつい外してしまいがち。

鈴川優希 「2手目44歩に同角で歩を切るのかと思っていただけ、なるほど馬が勝手に取ってくれるのか！」

■そうなのです。3筋攻めも意外と速い。

KG 「後手が飛車を使うことと、後手が玉を動かしたということから初手～6手目まではだいたい予測が立ちました。さらに、▲4三馬が4筋の歩を取る手なので、この手を限定させるためには後手は4筋に歩を打つだろうと。」

■すごいところから裏読みしてきましたね(笑)

S.Kimura 「はてるま手筋を活用することを思いついたことが幸いしました。玉を動かす手が謎でしたが、62玉限定なのですね。」

■62玉、42金、42銀の3つから限定する条件ですね。

宮谷保可楽 「突然詰んでしまって『ありゃ？』。あいかわらずの『下手な鉄砲式』解図法だところなる…。」

■勘が冴えていた、と考えましょう。

たくぼん 「王の手があったで全体が見えました。」

■攻め方玉が動く意味ってそんなにないですからねえ。

諏訪冬葉 「『後手』玉が動いたという条件を見落として、▲76歩△44歩▲同角△42飛▲53角△47飛不成▲58玉△56歩▲59金右△57歩成の筋ばかり読んでいました（これは飛車で詰まない）。」

■49の金を動かせば飛成で詰まず、動かさなければ歩成で詰まない……。

平井康雄 「飛の飛び込みは直感的には4筋でしたが、見事に裏をかかれました。当初は後手方の玉の手がナゾでしたが、この手順なら納得です。」

■攻め方の玉の手条件は、王手回避、無駄手処理、玉が攻めに参加、の3パターンを考慮。

ron 「これもよくある筋ですね。すぐに解けました。私も解答するのに慣れてきたのかなあ。」

■これがすぐ見えたなら慣れたと言ってよいでしょう。

占魚亭 「飛車は3筋か4筋かで迷いました。」

■44歩を突く余裕がないことに気がつかないとけっこう悩みます。

鈴木康夫 「76 歩 44 歩同角の紛れに嵌りました。」

■私もしっかりハマりました (笑)

隅の老人B 「43 歩を取っておくのが手品の種。37 飛生も巧手です。」

■生ならでの 1 手は小気味いいですよ。

正解：20 名

S.Kimura さん 斧間徳子さん かめぞうさん
 KG さん 朱さん 鈴川優希さん 鈴木康夫さん
 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん
 たくぼんさん NAOさん はなさかしろうさん
 はらたっとさん 平井康雄さん 星の平原さん
 宮谷保可楽さん 妙高仙人さん ron さん 渡辺さん

5 6 - 3 上級 橋圭伍さん作

円舞！？ 15 手

A 「この前将棋見てたら、26 角成 62 金同角成迄 15 手で後手が詰まされてたよ」

B 「その将棋なら自分も見たよ。先手も後手も同じ駒を異なる地点へ丁度 4 連続で動かしてたね」

C 「それだけじゃ、分からないから他にもヒントを……」

A 「歩の着手と王手が丁度 1 回ずつあったね」

B 「先手が着手した筋は丁度 5 つだったね」

A 「ああ、後、玉の手はなかったね」

C 「成程、それで手順が分かったよ！」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ ▲26 角成 △62 金 ▲同角成迄 15 手で詰んだ
- ・ 先手は同じ駒を異なる地点へ丁度 4 連続で動かした
- ・ 後手は同じ駒を異なる地点へ丁度 4 連続で動かした
- ・ 歩の着手と王手は丁度 1 回ずつ
- ・ 先手は丁度 5 つの筋に着手した
- ・ 玉の手なし

出題のことば (担当 DD++)

腰を落ち着けて少しずつ解きほぐして、さて何が飛び出すでしょう。

追加ヒント：

先手着手筋は 2 筋 3 筋 5 筋 6 筋 7 筋。先手角が 22 で角を奪った後もう 2 手で 53 へ移動するには後手の協力がが必要です。

推理将棋 5 6 - 3 解答 担当 DD++

▲7 六歩 ▽4 二銀 ▲3 三角不成 ▽7 二銀
 ▲2 二角不成 ▽3 三銀 ▲3 一角不成 ▽2 二銀
 ▲5 三角不成 ▽3 一銀 ▲7 一角打
 ▽4 二銀 ▲2 六角成 ▽6 二金 ▲同角成
 まで 15 手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂			王	金		桂	香	
二		飛	銀	馬		銀				
三	歩	歩	歩	歩		歩		歩	歩	
四										
五										
六			歩					馬		
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 金歩2

条件の多さに面食らう問題ですが、落ち着いて解いてみると綺麗にほぐれていく問題です。これも理詰め問題なので順に考えてみましょう。

まず考えるべきは最後の角成 2 回はどこから成ったのかということ。まず 26 角成は当然 71、62、53 のどこかからしか成れません。しかし玉の手がないということは 62 に角を置くことはできず、53 からもしくは 71 からの 2 択に絞られます。

続いて 62 角成。14 手目に 62 金を指したということは 62 は空所か先手の歩香飛のいずれかがあったか。しかし先手は同じ駒を 4 回動かした上で角打ちもしなければいけないため、そん

な駒を用意しておく余裕はありません。つまり62は14手目着手前、さらには遡って13手目着手前には空所。だとすれば最終手で73~95のラインから成ろうとすると12手目は王手放置をしていたことになってしまってNG。つまりこちらも71もしくは53~17のラインのどこから。これを両方実現するには12手目時点で53と71に角を置く形でしか実現しないのです。

それを踏まえて先手着手を考えてみましょう。初手は角出動のために当然76歩。そうすると歩の手1回の条件から後手は33の歩を突けないので先手が取ってやるしかありません。ここで先手の着手筋に関する条件があったことを思い出しましょう。先手は33の歩をかじり、53と71に角を置いて26と62に角を成るのですから、この5つの筋以外にはもう着手ができません。

となると先手の角の移動経路が決定します。33角不成~22角不成と角を奪った後2手で53か71に移動しなければなりません。44角不成は指せないので31角不成~53角不成。これでちょうど4連続着手になります。残った1手は当然取った角を71に打つ手。

では続いて後手を考えましょう。王手が1回だけ、つまり最終手以外は王手ができないのですから2手目に42銀(42飛は最後に62に利いてしまう)は必然です。そして角を打ち場を開けつつ飛の横利きを遮る72銀も必須。あれ、これで後手の必要な着手は全て？

いえいえ、先手角が31から53へ移動するときに42地点を開けておかななくてははいけません。ここに残り4手で4連続着手を費やしましょう。42銀が31へ戻るのは結局角の邪魔になるので最初はまず33銀。4段目に出ると帰りにも33を踏んでしまうので引いて22へ。33は既に使ったので31経由で42へ帰還。先手の着手と合わせて並べてみると、角のエスコートでタイトル通り銀がぐるりと回転します。

長編作家らしさのある手順と条件の魅せ方でした。橘さん作はこういう狙いの隠された作品が多いので、今回の作品が気に入った方はmixiのコミュで橘さん作を探してみてもいいかながでし

ようか。

ところで、平井康雄さんから本問の条件にこんなご意見が。

平井康雄 「『王手が1回』というのがちょっと曖昧のように思います。最終手が王手なのは当然なので、それを除いて1回なのかと思ったりしましたが、それなら2手目と4手目が手順前後になります。(そのかわり銀が5回連続で動くことになる。)これが作意なら、『王手は最終手の1回のみ』とするべきだったのではないのでしょうか？」

「王手は1回」が曖昧というのは全く考えもしませんでした。42-1や51-1のように詰みを求めない問題もあるわけですから、推理将棋では「最終手が王手なのは当然」ということはありません。むしろ「今回は詰みの局面を作る問題なんだからたった1回の王手を使うべきところは最終手だ」と考えるとところから問題の一部なのです。

ですから私にはこの条件に「最終手」を書き足すことはできません。私が書き足せばそれは問題に勝手に手を加えることになってしまいますし、作者に追加を要請すればそれは完全作投稿に対して条件修正を要求することになってしまいうからです。

とはいえ、この部分に関して平井康雄さん以外にも疑問に思われたあるいは勘違いをされた方がいたのも事実ですし、出題中に確認を求めるコメントがあったことも事実です。今後同じような不安のある問題については条件を改変しない範囲で補足できそうならば対応していこうと思いますが、ひとまず今回は最終手と書き加えなかった理由についてこのような背景があることをご理解いただければ幸いです。

それではみなさんの短評をどうぞ。

渡辺 「少し考えれば、先手は、76歩→角4連続移動→角打、後手は42銀→72銀→42銀の4連続移動であることが分かる。」

■いろいろなアプローチで解けますが、いかに最短でそこにたどり着くかですね。

はなさかしろう「角を後手陣にどう差し込むかが鍵。最終手の6筋を数え忘れて誤答しそうになりましたが先手の筋条件の由来を考えて何とか修正。銀の回転方向が2つあるんですね。」

■44 角不成を指せると銀の逆回転どころか何を4連続着手してもいいという。

妙高仙人「某看寿賞作を思わせる見事な銀の円舞。やや条件が多いか。」

■投稿時にも3条件くらいで収めたかったという作者の嘆きがありました。それが実現可能だったらなおいい作品になったでしょうね。

朱「後手が4連続で動かす駒はどれか。最初は角と思ったがうまくいかない。2手目△42銀とした後、一旦別の駒の着手を挟むのがミソで見事に銀が回転。実は題名が一番のヒントだったり？」

■橘さんは題名に狙いを表現することが多いのでそこから推測することもできなくもなかったり。

はらたっと「タイトル『円舞』で後手の手が思い浮かんで解けました。」

■このタイトルなら思い浮かぶのは角か銀ですよ。

NAO「最初3筋と4筋を使ってしまい6つの筋に着手で失敗。次に玉の手を12手目に指して失敗。できたと思ったら今度は53角が2回でまたまた失敗。条件が多いとの第一印象でしたが納得しました。」

■条件1つ外すだけでいろんな手順が出てくるんですよ。無駄手が多いので少条件でまとめるのは至難。

斧間徳子「条件数が多いのが気になるが、銀の円舞はお見事。最初、円舞するのは角とばかり思っていたので苦戦した。」

■順番に可能性を狭めていくと一番最後に浮か上がるというのも素晴らしい構成です。

星の平原「後手が歩を突けない、王手がないという制約が結構厳しくて逆に手が限定されて考えやすかったです。銀の円舞を先導する角の動きが楽しいですね。」

■居玉かつ途中の王手がないというのは意外と手が狭いんです。

鈴川優希「33銀は面白い手。でも、その後の回転に積極的な意味がないのがちょっと不満かな。」

■推理将棋は初形が決まっているので、積極的な意味を持って回転するとなると短編中編で作るのは超高難度。うまく作れた方はぜひ投稿を。

KG「2手目に△4二銀と指してるので、この銀は4二の地点にはもう行けないと錯覚してしまいました。タイトルの『円舞!』が角と銀の動きをうまく表していて良いですね。」

■そこは少しミスリード的なのですが補足すると台無しだし、とけっこう迷いました。

S.Kimura「条件が多かったので敬遠していたのですが、11手目の時点で先手の角が53と71にいないてはならないことから、考えてみると、中級よりも解きやすかったです。後手4連続の手で、銀が1周するのが面白かったです。」

■担当はどうしたらこの一見重そうな問題に手を出してもらえるかに苦心しました。

宮谷保可楽「追加ヒントが出たとたんに解けてしまった。たぶん、4連続で動かした駒は、それ以外に動いていない(…とはどこにも書いていない)と思いこんでいたからだろう。」

■推理将棋の一番の敵は「思い込み」。

たくぼん「見事な角と銀の回転趣向。推理将棋では貴重でしょう。」

■です。しかも15手で収まってますからね。

諏訪冬葉「角の後を追う銀の動きが楽しかった。」

■くるくる推理将棋と言うにはちょっと難しくすぎますか、残念。

平井康雄 「先手が4筋を使わないのなら、必然的に先手方8手は決まってしまう。後手方も42銀と72銀が決まりで、後は4回連続で動く駒は何か？という問題が残るだけ。結局左銀しかないとなると、上記の手順となります。3回目と4回目はもと居た場所に戻るだけですが、条件には合っているのかな？『円舞』というのは角と銀の動きのことですね。」

■4連続着手が全て異なる地点というだけなのでそれとは別に着手する手と場所が重複するのは問題ありません。

ron 「たくさん条件があるので、すぐに手順を限定できそうですが少し悩みました。銀の回転する様が面白いですね。」

■手順の本質部分はちゃんと考えないと出てこない作りになっていますからねえ。

占魚亭 「自信ありません。おそらく間違っていますね。」

■いえいえ、合ってますよ。解答が正解かどうか自分でわかるのも推理将棋の良さの1つなのですけど。

隅の老人B 「残念、先手の王への王手が分らない、解答が楽しみです。」

■これも王手条件絡みの誤解でしょうか。仮に平井さんと同じ勘違いでも先手玉への王手というのがどこから出てきたのか……。

正解：17名

S.Kimura さん 斧間徳子さん KG さん
朱さん 鈴川優希さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん
たくぼんさん NAOさん はなさかしろうさん
はらたっとさん 平井康雄さん 星の平原さん
宮谷保可楽さん 妙高仙人さん ron さん 渡辺さん

総評

渡辺 「今回は解答者に優しい問題でした。」

■上級は人によっては厳しいかな、という感じもありましたが。

はなさかしろう 「易しくて解き心地の良い短編を作るのはなかなか難しいと思うのですが、さすがの初級問題。練習問題もいつも楽しみなのですが、時々うっかり答を見てしまって後悔したりしています。中級は条件、上級はモチーフと、今回は見どころのバラエティを楽しみました。」

■そうそう、練習問題の投稿もお待ちしています。

はらたっと 「珍しく早くも回答します。3問目は手数は長いですが条件を当てはめたら、あっという間でした。」

■私も解答者履歴を見ていて、「あ、はらたっとさんが今回早い！」とっていました（笑）

NAO 「作品ストック少ないようですので投稿したいとも思いますが、気の利いた短編はなかなか作るのが難しいですね。どうしても条件盛り盛りになってしまって……」

■私もNAOさん作は使ってみたいのですがいかんせんNAOさん作は高度すぎて……。

星の平原 「はじめての完答です。今回中級は追加ヒントに頼りましたので、次は追加ヒントなしでの完答を目指します。」

■おめでとうございます。次もぜひがんばってください。

鈴川優希 「今回も時間がなく、結局ヒント待ちとなりました。次回こそは……って、これを言うのは何回目か。（笑）」

■このところ少し難しい問題が続いていますからねえ。簡単な問題の在庫が……。

宮谷保可楽 「DD++さんの追加ヒントにいつも助けられています。感謝。」

■ どういたしまして。

たくぼん 「ベテラン陣の活躍に期待ですね」

■ ベテラン解答者たくぼんさんの活躍にも期待。

ron 「今回はどの問題も簡単に感じました。私もそろそろ解答ビギナーを卒業できたのかなーなんて、調子づいています。」

■ これを簡単だと思えたのならビギナーなどづくりに卒業でしょう。

かめぞう 「これから解答して行きたいと思います。」

■ ぜひともお待ちしております。

推理将棋第56回出題全解答者： 22名

S.Kimura さん 斧間徳子さん かめぞうさん
KG さん けんけんさん 朱さん 鈴川優希さん
鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん
占魚亭さん たくぼんさん NAOさん
はなさかしろうさん はらたつとさん 平井康雄さん
変寝夢さん 星の平原さん 宮谷保可楽さん
妙高仙人さん ron さん 渡辺さん

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

7月29日(日)

JIGSAW BOX #07

フェアリー作品 2作

8月15日(金)

第43回 WFP 作品展(Bコース)

フェアリー作品 7作

推理将棋 2作

第44回 WFP 作品展

フェアリー作品 4作

Fairy of the Forest #32

協力詰 7作

作品募集一覧

第13回詰四会フェアリー作品展

課題：合駒をちょっと読まされる作品

締切：平成24年8月26日(日)

投稿先：たくぼん takuji@dokidoki.ne.jp

第37回神無一族の氾濫

作品要件：利きのない駒を使う作品

締切：平成24年10月14日(日)

募集作品数：4 (+α)

投稿先：神無七郎 janacek789@ybb.ne.jp

(詳細はP18参照)

【あとがき】

詰パラ掲載のフェアリー詰将棋に授与される妖精賞が発表されました。余談ですが、詰パラ誌には第23回とありますが、第1回が1988年度ですので第24回が正しいと思います。2005年度、2006年度が共に第19回となっているのが

原因と思います。

今回の受賞は、短編部門が神無太郎氏作の背面ばか自殺STM・6手(詰パラ8月号⑤)、中編部門が尾形充氏作の自殺詰・20手(詰パラ2月号③)、長編部門が小島幸喜氏作のばか千日手・68手となりました。

(図面は転載の許可を取っていないので選考状況などと含めて詰パラ7月号をご覧ください。)

それにしても妖精賞もそうですが、フェアリーランド年間優秀解答者も呈賞は何も無いのはちょっと寂しいですね。まあFairy TopIXもそうですが、将来的には盛大に・・・になりたいものです。

私事ですが、少々体調がすぐれず、やらねばならぬことは多いのですがなかなか手に付かない状況です。普通に仕事やバドミントンは出来る状況ですので大丈夫だと思いますが、じっくり机に向かって作業に取り組むことがなかなか出来ない感じです。精神的余裕が無いという感じでしょうか。これまで余り感じたことがない感覚ではあります。解図日記も滞り、読者の皆様には申し訳ない次第ですが徐々に再開して行こうと思っております。

これから暑さもピークになってくると思いますので皆さんも健康には気をつけられてお過ごし下さい。

そうそう誰か詰将棋全国大会(フェアリスト向け)レポート送ってこないですかねえ・・・よろしくお祈いします。

たくぼん

2012年 第49号

Web Fairy Paradise

非売品

平成二十四年七月号

平成二十四年七月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合せ先 takuji@dokidoki.ne.jp